

## 平成30年度 体育科実践・研究計画

部 員	○佐々木 雅巳, 高橋 亨
-----	---------------

研究テーマ

自他の心身と向き合い、考えながら動きを見いだす子どもの育成

### 1 研究テーマについて

これまで体育科では、「できる喜びを味わい、運動する楽しさを広げる体育学習」というテーマで3年間研究を進めてきた。

研究の成果としては、大きく3点挙げられる。1点目は、動きの検証場面において「対話」を効果的に位置付けたことにある。動きを自ら体現する手がかりを知る上で、「仲間との対話」は体育科においても欠かせないことが実証された。2点目は、ICT機器を効果的に活用したことである。体育の動きは一連の流れとして、決して留まることはない。動きを止めたり、巻き戻して再度見返したりするなど、動きの質を高めていく上で、動画の視聴が効果的であることも確認できた。3点目は、子どもが着目すべきポイントを意識できるように動きの焦点化を図ったことにある。撮りためていた動画や連続写真の中から、体育科において必要となる「見方・考え方」を働かせている動きをピックアップし、機会を見付けて紹介することで、動きの質の改善を図ることができた。その一方で、体育科に必要な「見方・考え方」を自ら働かせながら、一人一人が自分事として課題をとらえ、解決するための方法と真摯に向き合い、その成果や課題について振り返りながら次の学びへとつなげていくことについては、課題が残っていると考える。

研究主題にある「自律した学習者」を体育科では、心と体を一体としてとらえ、自分に合う動きかたや健康な過ごし方を考え試しながら、学びの成果や課題を見出し、生涯にわたって運動に親しもうとしたり健康で有り続けようとしたりする力を高めていく姿をとらえ、新しく研究テーマを「自他の心身と向き合い、考えながら動きを見いだす体育学習」に設定した。「自他の心身と向き合う」とは、自分の頭で考えている感覚と体で表現している動きがつながっているのかを自覚すること。また、友達の動感や動きのよさに目を向け、自分と比較することととらえる。そのためには、互いに動きを見合っただけで事実を伝え合う対話的・協働的な学びが必要となってくる。「考えながら動きを見いだす」とは、自分の課題を克服するために、動きを試し、自らの学びを省察しながら自分自身を高めていくことととらえる。「何を学ぶか」「どう学ぶか」「どう活かすか」を具体的に見通しをもって体を動かそうという意欲を高めることこそ、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力の基礎を養うことにつながるものと考えられる。よって、体育科における「学びをつなぐ」とは、心や体で感じた感覚と体の動きとを往還させながら、課題をとらえ直したり、修正したりし、動きの精緻化を図ることととらえる。

体育科においては「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」を以下のようにとらえている。

- ・ これまで培ってきた運動経験と今行っている学習を結び付ける姿
- ・ 仲間同士で見合った互いの動きやよりよい考えを伝え合う姿
- ・ 今まさに行われる動きの中に共通点や新たな相違点を見付け出す姿
- ・ 体育科で働かせる「見方・考え方」を意識しながら用いる姿

## 2 研究の重点

### (1) 動きの系統性を踏まえた単元構成の工夫

体育科の内容は、6つの運動領域に分類されており、発達の段階に応じて2学年毎に動きが系統立てられている。まずは、学級の子どもの実態と照らし合わせながら、本単元における目指す子どもの姿を明確にしていく。

また、興味や関心を喚起するためには、易しい課題からはじめる学習が不可欠である。「これならできそうかも」「もっとやってみたい」と思えるように、これまで経験してきた動きをもとに、適度な負荷を上乗せした課題を提示する。子どもが自分(たち)で課題を解決するために、個人やチームで行う学習方法(ボール運動：メインゲームにつながるタスクゲーム、器械運動：主運動につながるスモールステップ学習など)を考えていきたい。

### (2) 体育の「見方・考え方」を働かせる学習過程の工夫

体育科の本質は「動いて学ぶ」ことである。運動量を確保しながら「見通す」「対話」「省察」の活動をどのように位置付けていけばよいかバランスを考えていきたい。特に、成果と課題をふり返るための「省察」の仕方を吟味し、子ども一人一人に学びの自覚を促していく。また、単元全体の中で効果的と思われる時間に「対話」を位置付けたり、前時のうちに本時の見通しをもたせたりして、「動いて試行する」時間を十分に確保し、動きの質を高めていきたい。

また、本単元の中で働かせる「見方・考え方」を明確にし、繰り返し用いることのできる場面を設定する。その状況や場面に少しずつ変化(動き・人数・コート of 広さ)を付けながら、子どもたちが「見方・考え方」を働かせ学ぶことができるように学習過程の在り方について検証を進めていく。

## 3 研究・研修計画

時 期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科部会</li> <li>・市体育研究会の提案授業への研究協力</li> <li>・附属中学校公開研究協議会(6/1)</li> <li>・附属小学校公開研究協議会(6/8)</li> <li>授業提案(佐々木雅：5A, 高橋亨：3A)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践・研究計画の確認</li> <li>・市体育研究会との連携</li> <li>・附属中学校との共同実践・研究</li> <li>・授業づくり, 授業力の向上, 授業を通して重点事項の検証</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要原稿執筆</li> <li>・教科部会</li> <li>・オープン研修会(10/23)</li> <li>授業提案(佐々木雅：5A)</li> <li>・全市一斉授業研究会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践・研究のまとめ</li> <li>・実践・研究の修正</li> <li>・市体育研究会との連携</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部内研修会(高橋亨)</li> <li>・教科部会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学への研究協力</li> <li>・実践・研究計画の立案(案)</li> </ul>

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正